

第2回 勉強会報告

＜ 内容 ＞

日時：1992年6月18日(木) 13:00～17:00

場所：回生看護学院

会費：500円

内容：利用者サービスについて

講師：山室 真知子(京都南病院)

松本 純子(住友病院)

林 伴子(社会保険神戸中央病院)

徳田 雅子(大阪府立母子保健

総合医療センター)

見学：大阪回生病院図書室(案内：加島民子)

参加者：12名(うち研修部4名)

＜ 報告 ＞

昨年好評であった新任者のための研修会を、今年も同形式で第2回勉強会として開催した。参加者のうちわけは、新入会員2名、担当者交替による新任者2名、図書室業務経験1～3年程度の担当者4名、講師4名であった。対話形式の勉強会には好都合の構成となったといえよう。

今回のテーマ「利用者サービス」については、当協議会で行っている年次統計調査用紙の「利用者サービス」の調査項目に沿って進められた。これには病院図書室に求められている「利用者サービス」のほとんどが網羅されているので、各自の図書室の現状とを対比しながら説明を聞くことができた。統計調査時期が間近ということもあって、統計の取り方と記入方法についても説明した。

この他に、参加者からの質問にも答えた。

「医療分野とはかけ離れた一般的な問い合わせにはどう対処したらよいのか」という問いには、最寄りの公共図書館を活用する方法を、具体的な事例をいくつか挙げて紹介した。

CD-ROM 検索に関する質問には、マニュアル検索とオンライン検索の概要を説明した上で、それらとの相違点を指摘した。導入に際しての参考資料として、会報18巻4号通巻99号(1991/11/26)の「CD-ROM特集」を、また、一次資料のCD-ROM版については、会報18巻5/6号通巻100号(1992/2/29)の「『ADONIS』説明会を聞いて」を紹介した。

新入会員からは、相互貸借業務について質問があった。当協議会発行の目録については近々、改版が予定されていること、相互貸借ハガキは京都南病院から購入できること、自分のところに目録がない場合には京都南病院・住友病院に所在調査を依頼できること、など協議会の事業内容を含めて説明し、わからないことが出てきたらいつでも研修部員や幹事病院に限らず加盟病院に気軽に問い合わせるように勧めた。

会終了後にも、単行書の分類法などの個別の質問があり新任担当者の熱意がうかがえた。勉強会への参加については、それぞれが明確な目的を持って臨んでいるようである。お互いに顔を間近に見ながら納得のいくまで質問できるから、こうしたこじんまりした勉強会もなかなかいいものだ。「鉄は、熱いうちに打て」ともいう。おかしいなと思ったら、そのままにせずにどんどん尋ねてほしい。満足のいく答えが得られるまで、その問題を共に考えていこうという同僚が病図協の加盟病院にはたくさんいるのだから、自分の勤務している病院内に相談に乗ってもらえる人がいなくても大丈夫だ。そうして不安や疑問の一つ一つを乗り越える度に図書室の機能の方も段々と向上していくはずだ。

勉強会に先立って約1時間、最近移転したばかりの大阪回生病院図書室を加島氏のご好意により見学させて頂いた。図書室担当者の執務領域、利用者の閲覧領域、そして集密書庫と、シンプルで機能的な図書室であった。新任担当者にはうってつけのモデル図書室となったのではないだろうか。レイアウトや参考図書などもとても参考になったので、今後の勉強会の企画に図書室を使った演習などを盛り込んでいきたいと思った。

(文責：徳田 雅子)